

稲WCS用品種「あおばまる」の特性

～ 黄熟期全重・成熟期全重ともに多収な品種を開発 ～

要約

黄熟期全重・成熟期全重が多収な「あおばまる」を育成しました。「うしゆたか」に替わり稲WCS（発酵粗飼料）用の奨励品種に指定されました。

研究成果の概要

1. 背景・目的

本県では「中生の早」熟期の稲WCS用品種として「うしゆたか」が作付けされていましたが、黄熟期全重がより多収な品種が望まれていました。そこで、黄熟期全重・成熟期全重が多収な稲WCS用品種を育成しました。

※稲WCSとは、稲の米粒が完熟する前（糊熟期～黄熟期）に、穂と茎葉を同時に刈り取り、サイレーシ化した粗飼料のことで、主に乳用牛や肉用牛の飼料として利用されます。（農林水産省、稲発酵粗飼料の取り組みについて(H18)より引用）

2. 内容

出穂期・成熟期は「うしゆたか」より遅いものの、黄熟期に刈取る場合問題ない。

「うしゆたか」より全重がかなり重い。

表1 「あおばまる」の主要特性

品種名	早晚性	出穂期	黄熟期	成熟期	稈長 (cm)	黄熟期 全重 (kg/a)	同左 標準比 (%)	成熟期 全重 (kg/a)	玄米 千粒重 (g)
あおばまる	中生晩	8月 6日	9月 9日	9月20日	96	155.2	125	218.5	31.2
うしゆたか	中生早	7月31日	8月30日	9月12日	90	123.9	(100)	183.8	25.0
まっしぐら	中生早	8月 3日	-	9月19日	81	-	-	190.1	22.3

(注) 平成26～令和3年、農総研(黒石市)多肥区(N:1.0+0.4kg/a)の結果。

品種名	いもち病抵抗性		耐倒 伏性	耐冷性
	葉い もち	穂い もち		
あおばまる	不明	不明	強	極強10
うしゆたか	やや強	不明	極強	中
まっしぐら	強	やや強	強	やや強

(注) 極強10は極強より2ランク強いことを示す。

いもち病抵抗性は「不明」だが、現在、県内に分布するいもち病菌のレースでは発病が認められていない。

表2 飼料成分分析値

品種名	乾物中(%)			
	粗外 パク質	可溶無 窒素物	粗 繊維	粗 灰分
あおばまる	4.9	48.8	27.3	14.9
うしゆたか	5.3	43.7	27.9	18.0

(注) 平成30年畜産研究所による調査。

飼料成分は「うしゆたか」とほぼ同等。

3. 活用等

県内全域での作付けが可能です。籾千粒重が重いので、播種量を一般うるち品種より2割増やす必要があります。また、穂発芽しやすいことから、催芽時の芽の伸ばし過ぎに注意が必要です。



関連情報

令和3年2月に県の飼料作物奨励品種に指定されました。令和5年度は150ha程度作付けされています。